

平成26年度下期 新潟市景況調査【概要版】

調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」について、平成26年10～12月期は前期（同7～9月期）から同水準で推移したが、続く平成27年1～3月期は悪化した。先行きについてみると、同4～6月期は回復に転じる見通しで、同7～9月期についても引き続き改善する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」「受注」「出荷」は同水準で推移した。「在庫水準」は製・商品、原材料とも過剰超となった。「仕入価格」「販売価格」はともに低下した。「資金繰り」は悪化した。

経営上の問題については、「人材不足」が最も多く、以下「仕入価格の上昇」、「生産・受注・売上げ不振」と続いている。

業界の動向については、幅広い業種で人材不足、為替動向（円安）に伴う仕入価格の上昇といった声などがあつた。消費増税の影響については、反動による売上の低迷を見込む声がある一方、徐々に回復してきているといった声などがあつた。

1. 調査の概要	1
2. 回収結果	1
3. 調査結果	
(1) 業況判断	2
(2) 生産・売上, (3) 受注	3
(4) 出荷, (5) 資金繰り	4
(6) 在庫	5
(7) 価格	6
(8) 雇用	7
(9) 設備投資	8
(10) 経営上の問題	9
(11) 調査結果の業種別総括表	10
(12) 事業所, 業界の動向	12

※注 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。

・ 前期 H26.4～9月期 ・ 今期 H26.10～H27.3月期 ・ 来期 H27.4～9月期